

キュウリの育苗用配合土の理化学性

西村昭司郎・清水康司・白井美和

キュウリの育苗用配合土の理・化学的診断指標をうるため、9種類の配合土を作成し、キュウリ苗の生育、配合土の理・化学性およびキュウリ苗の無機成分吸収量を調査測定した。それらの結果を要約すればつぎのとおりである。

1. 理・化学性の異なる配合土に対して、キュウリ苗はきわめて鋭敏な生育反応を示した。
2. キュウリの育苗用配合土には、壤土を基土とした方が、砂土を基土にした場合よりも健苗が養成できた。
3. キュウリの健苗が養成できる育苗用配合土の物理性は、容積重:74~103g,孔隙率:59~67%,保水性:30~43%,透水性: $7.00 \times 10^{-4} \sim 1.00 \times 10^{-2}$ cm/sec であることが確認できた。また配合土の化学性については、pH(H₂O):5.8~6.1,腐植:2.1~5.1%,T-N:0.14~0.22%,C/N:9.1~13.9,塩基置換容量:10.4~17.8m.eが、優良配合土の理・化学的診断指標となる。
4. これらの理・化学性を具備した配合土は、腐葉土を壤土に0%~50%,砂壤土には50%配合することによって作成できた。